

# 第一回 木山捷平文学選奨



庶民的な視点から飄逸<sup>ひょういつ</sup>でユーモアと滋味あふれる作品を数々残し、その独自の文学世界で日本文学に特異な地位を確立した木山捷平。

この文学選奨は、笠岡市出身の詩人・小説家である木山捷平の功績を顕彰するとともに、文化の振興及び豊かな芸術文学の高揚を図るために創設されました。

## 木山捷平短編小説賞

新人で未発表の新作を対象とした短編小説部門には、全国から二三点の応募がありました。

予備選考を経て十一作品に絞られ、その中から神奈川県厚木市の主婦、牛山喜美子さんの『最終バス』に決定しました。

### 筆者プロフィール



うしやま きみこ  
牛山 喜美子  
(本名：竹本 喜美子)

昭和二十九年生まれ。長野県出身。お茶の水女子大学文・教育学部を卒業し、国会議員の秘書、OLを経て現在は専業主婦。四十五歳でエッセーを書き始め、第十一回長野文学賞受賞経歴をもつ。

### 望郷の思いを表現

驚きと興奮が入り交じり、とにかくうれしい。感動しています。

木山捷平さんの作品は、夫がよく読んでいたので、それをきっかけに二十年近く前からよく読むようになった。

りました。

この作品は、大人になって部分的にはあるけれど、強烈に憶えている明暗を描きました。木山さんのふるさとに対する思いは、この歳になつてはじめて見えてきたように思えます。そういった部分を反映しただけに、受賞に対しては格別の思いがしています。

### 『最終バス』あらすじ

舞台は信州の山に囲まれた町。寒天づくりが盛んだ。主人公の小学四年生、寿々子の家も寒天づくりを営んでいる。

寿々子は本が大好きな少女。ちよつぱり背伸びして、町の図書館で『魅せられたる魂』や『月と六ペンス』を借りたりする。秀才で転校生の修治との幼い恋めいたやりとりも印象的だ。

### さわやかな文章と

#### ユーモアあふれる作風

選考委員 川村 湊氏(文芸評論家)

全体的にさわやかな文章で綴られている。ひょうたんや寒天といった懐かしいものの匂いや手ざわりの表現が絶妙で、情景が目につかぶほどうまく描かれている。世の中を悪意なく素直に書きながら、その中にユーモアあふれる作風は、まさにこの賞にふさわしいといえる。